

【ポイント①】 様々な合意形成方法の活用

a. アンケート調査の工夫（国土交通省宮崎河川国道事務所の事例）

事業延長が約 14.7km と比較的規模の大きいワシントンニアパーム並木を更新する事例です。

街路樹の植え替えにあたり、市民等の意見を収集するため、対象地域の市民や道路利用者を対象に 4 種類のアンケート調査を 3 ヶ月かけて実施しました。



アンケート手法と実施内容

手法	方法	主対象	地点
1 配布式	沿道住民の方にアンケート用紙を配布・回収。自治会単位で趣旨説明会を開催。	沿道住民の方	沿道住民の方
2 聞き取り式	調査員が対面式で意見を聴取。	市民、県民、観光客等	路上、駅、空港等
3 置き式	人の集まる場所にアンケート用紙(回収 BOX)を設置。その場で記入。アンケート内容やフォトモニタージュ等をモニターやパネルで分かりやすく掲示。	市民、県民、観光客等	市役所、事務所等
4 HP 式	事務所 HP の検討会サイトにアンケートバナーを設置し、WEB 上で意見を収集。	不特定多数 (全国)	事務所 HP 内

(出典：宮崎ワシントンニアパーム維持管理検討会 第 3 回検討会資料を一部改変)

【公開資料 URL】 アンケートに係わる検討は、第 3 回検討会 P.25～28

http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/site_files/file/douro/maintenance/scenery/dai3kai_honsiryoun.pdf

b. アンケート調査の工夫（仙台市の事例）

事業延長約 1.5km の青葉通のケヤキ並木を対象とし、地下鉄工事に際し除去不可避なケヤキを植え替える事例です。

青葉通は、昭和 21 年の戦災復興事業により、仙台駅から仙台城跡までをつなぐ大通りとして、戦災で焼失



青葉通将来像（イメージ図）

した城下町の屋敷跡につくられました。この青葉通にはケヤキが植栽され、仙台の発展とともに成長し、今では「杜の都」のシンボルとして市民が愛着と誇りを感じる財産になっていることから、市民の意見を十分に計画に反映させるため、**市域全体と沿道住民それぞれ**に下表のとおり調査を実施しました。

アンケート調査等の実施内容

	実施内容	実施時期	対象者
1 回目	青葉通ケヤキ並木などに関する市民意識調査	平成 15 年 1 月～2 月	市域全体 8,100 人 沿道地区住民 2,000 人 (青葉通及び定禅寺通)
2 回目	青葉通の将来の姿に関する市民意識調査	平成 16 年 10 月	市政モニター※ 青葉通沿道事業者
3 回目	青葉通再生の考え方・青葉通の将来像について市政だよりにて意見募集	平成 17 年 2 月	市域全体

※市政モニター：公募により 18 歳以上の市民 200 名に委嘱

【公開資料 URL】 「青葉通の再生に向けた提言書」 P.9～10 に調査結果の概要を記載

<http://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/curashi/shizen/midori/midori/aoba/documents/teigen.pdf>

c. パブリックコメントの工夫（長久手市の事例）

事業延長が約1.3kmのハナミズキとツツジ等を組み合わせた植樹帯の再整備を行う事例です。

市役所の前面道路で市の顔となる路線の一つという性格に鑑み、広く市民の声を反映させるためパブリックコメントを採用し、平成26年6月23日～7月22日の1箇月間実施しました。

パブリックコメントに提示する資料として、15ページの「県道田名古屋線の歩道再整備（案）」を作成しました。

同（案）では、次に掲げることなどを工夫しました。



再整備後

- ①現状把握については、**写真を多用し、撮影位置を明示**しました。
- ②「**植栽帯の景観向上コンセプト**」を記し、再整備にあたっての基本的な考え方を示しました。
- ③景観向上を目的とした**植栽帯の再整備内容を具体的に**示しました。
- ④植え替える樹木の樹種と、それぞれの**樹種が担う役割**を示しました。
- ⑤**イメージパース**を作成して、整備後の植栽帯の姿を明示しました。

【公開資料URL】パブリックコメント資料 県道田名古屋線の歩道再整備（案）

<https://www.city.nagakute.lg.jp/material/files/group/22/tamomisaiseibi.pdf>